

シンポジウム13

脳血管内治療の「ダイバーシティ」と「ワンチーム」企画

# JSNET アンケート調査結果

神戸市立医療センター中央市民病院臨床研究推進センター  
坂井千秋

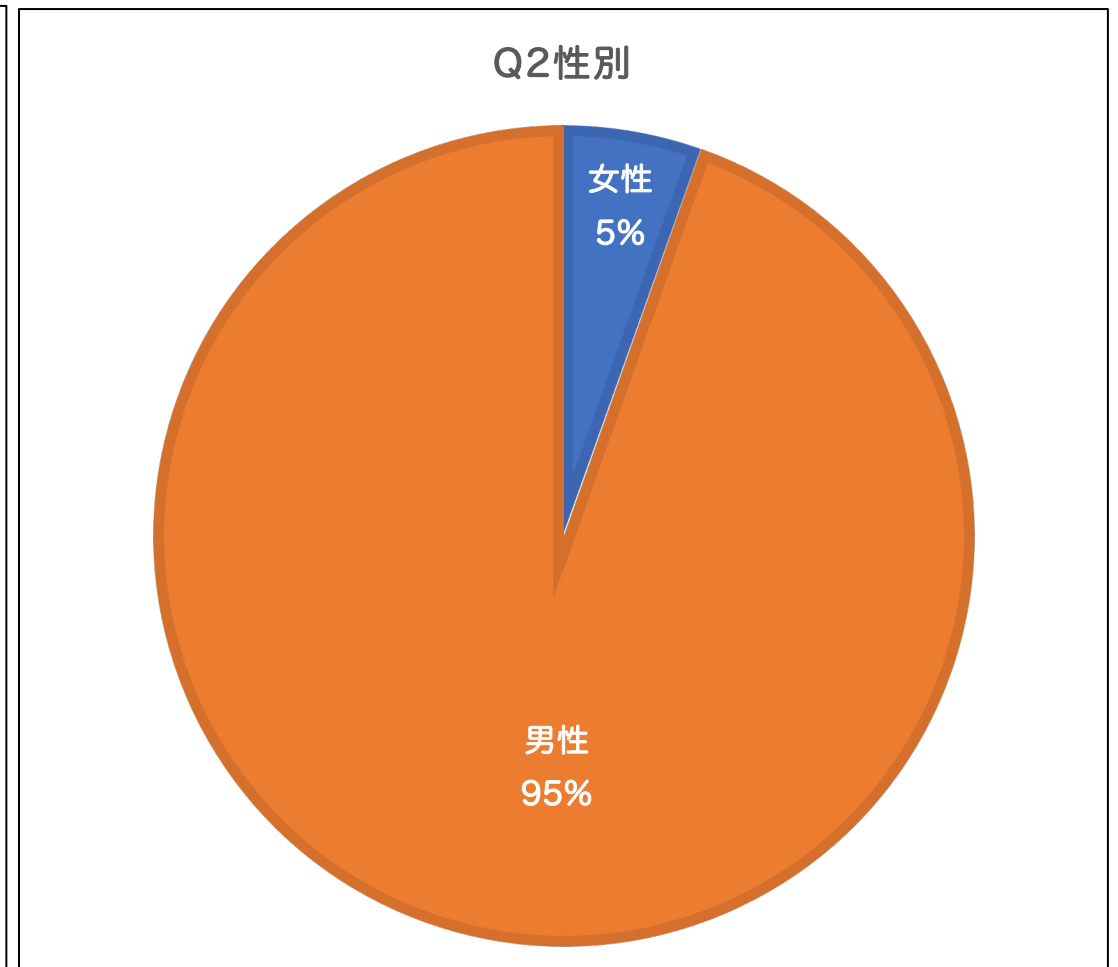
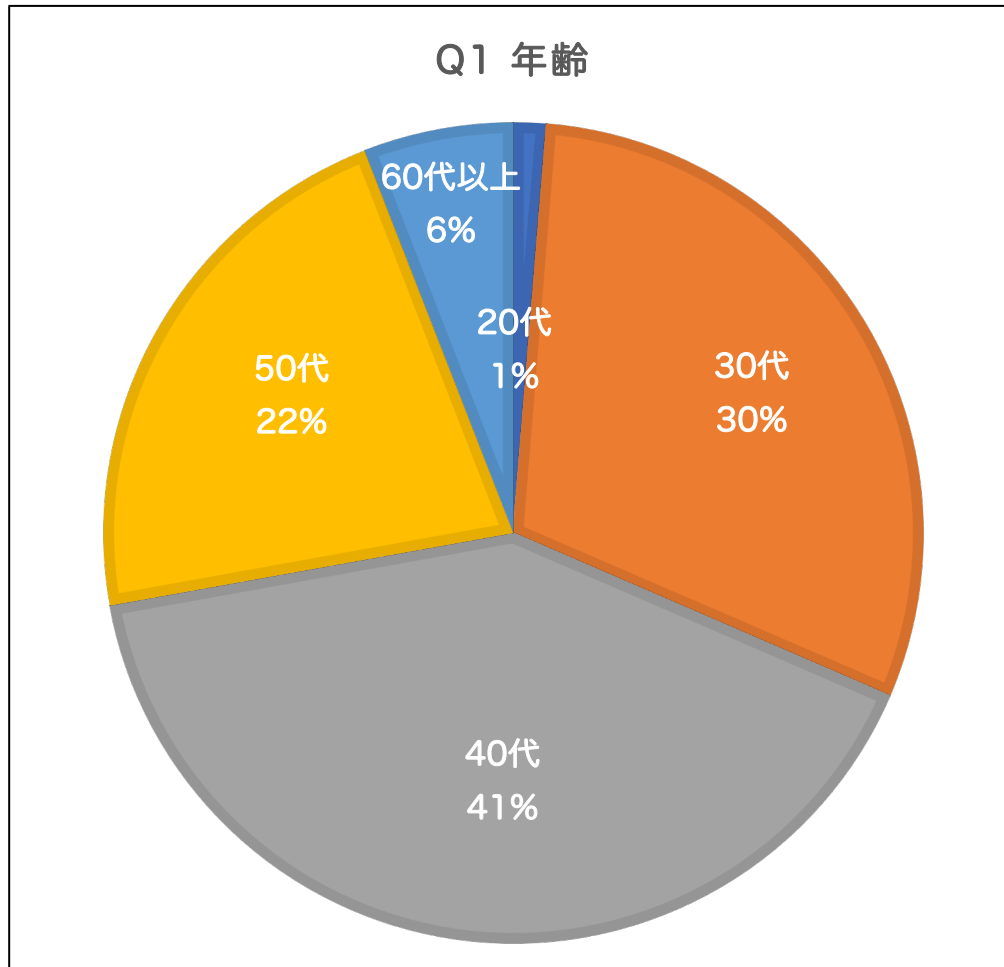
JSNETダイバーシティ推進委員会企画  
アンケート調査2021

- 目的 本学会員に関する諸問題の抽出と、それに対する対処・支援、環境改善
- 対象 JSNET全医師会員
- アンケート収集期間 2021年8月2日～同年9月12日
- 回答数 848名（4374名中。19.4%）

# アンケート内容

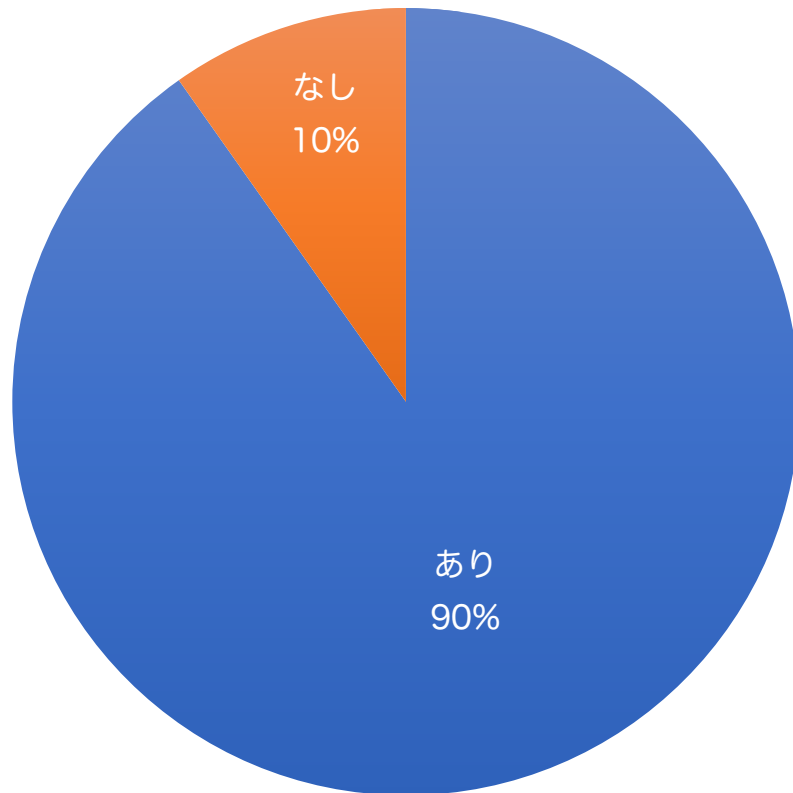
属性	年齢・性別・配偶者の有無・配偶者の職業・子供の有無・JSNET専門医資格・学位取得・JSNET専門医取得時期・勤務先・勤務形態・オンコール・当直・ベースとなる専門医資格
働き方	①現在のペースで仕事を続けていく自信があるか？ ②労働環境改善のために職場で導入されている制度があるか？
育児・介護	③職場は育児・介護に対し理解があるか？ ④育児・介護による時短勤務についてどのような問題があるか？ ⑤出産・育児や介護、自身の病気が原因で休職した経験があるか？ 復帰の際困ったことがあったか？ 何に困ったか？ ⑥脳血管内治療医の休職後の復帰に必要なあるいは役立つシステムは何か？
キャリア	⑦脳神経血管内治療医としてのキャリア形成に男女差はあるか？ どのような差があるか？
性差	⑧職場は性差の区別なく仕事ができ昇格できる環境か？ ⑨男性医師・女性医師のどちらも在籍する職場が望ましいと考えるか？
妊娠・被ばく	⑩自身もしくは脳血管内治療の同僚スタッフの妊娠に遭遇したことがあるか？ ある場合、困ったことは？ ⑪被ばく線量などを規程した妊婦に対する脳血管内治療のガイドラインが必要だと考えるか？
サポート	⑫JSNETで専攻医のキャリア形成をサポートする会があれば良いと思うか？ どのようなサポートを望むか？

# 属性

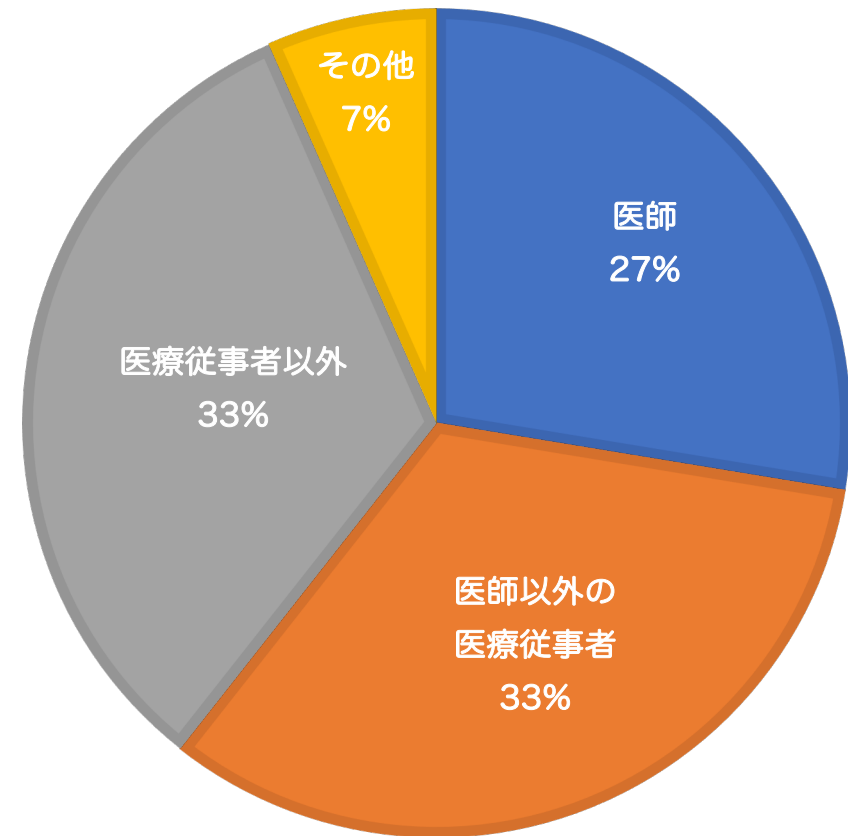


# 属性

Q3 配偶者の有無

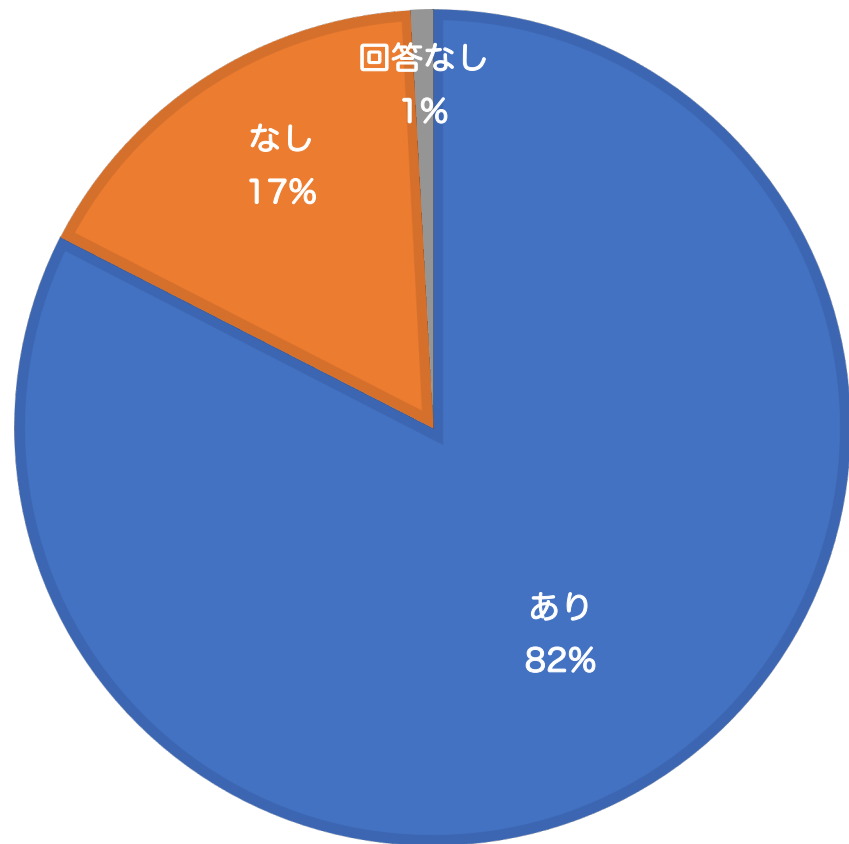


Q4.配偶者の職業

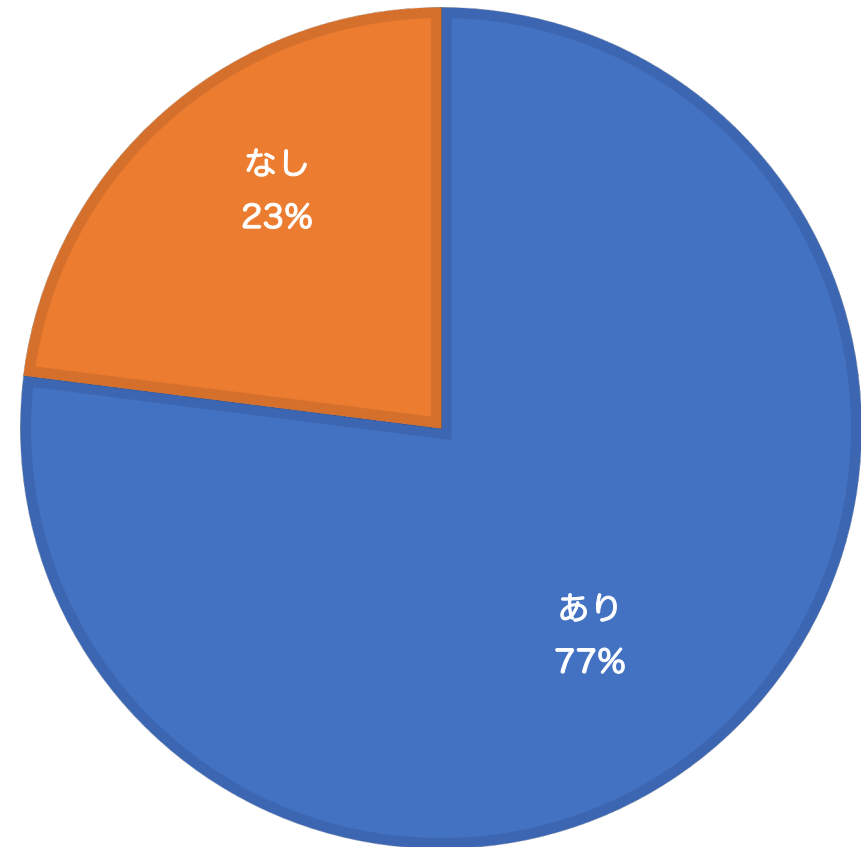


# 属性

Q5. こども

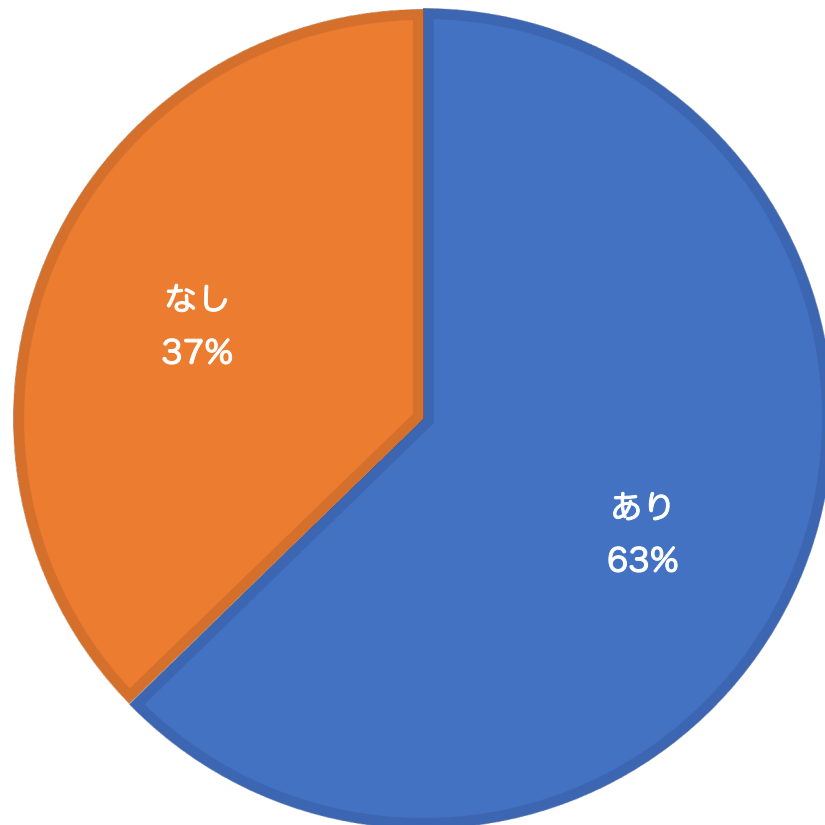


Q6. 専門医資格

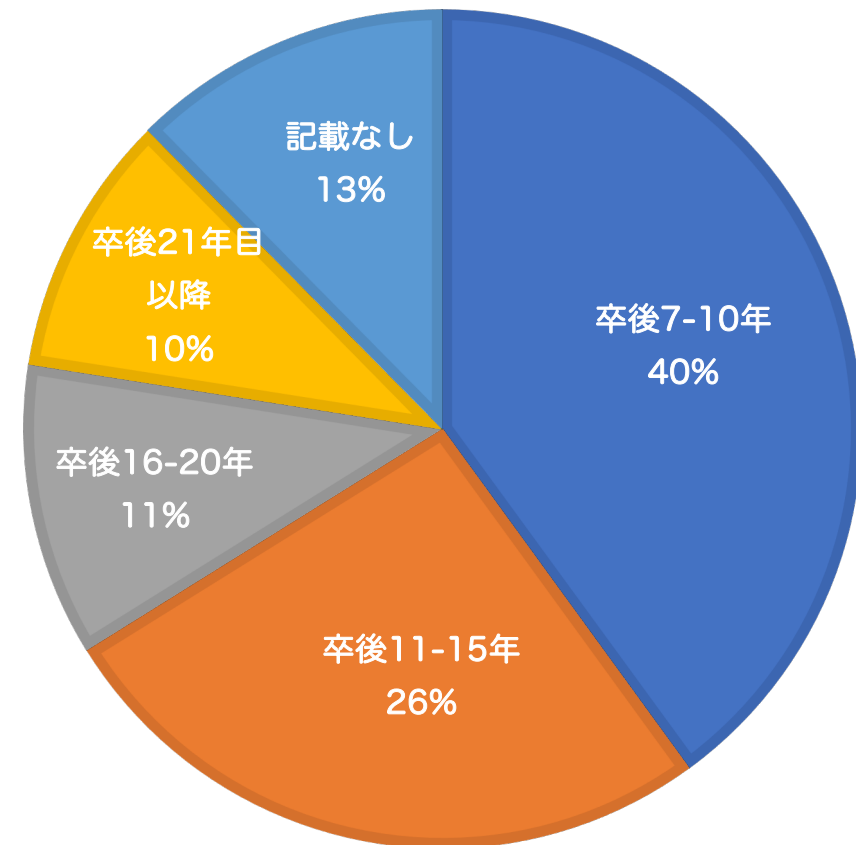


# 属性

Q7 学位取得

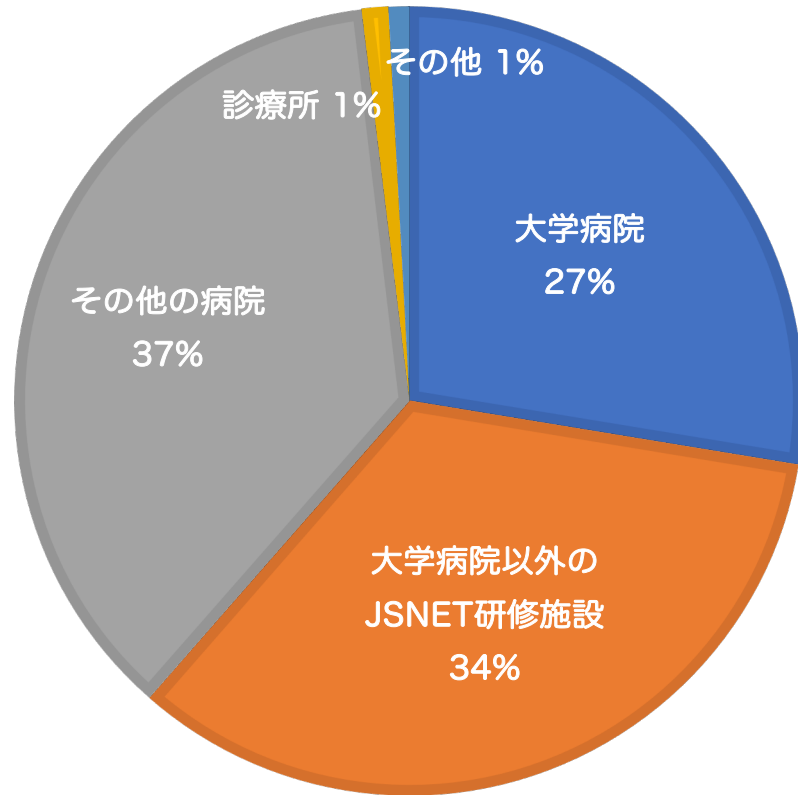


Q8. JSNET専門医取得時期

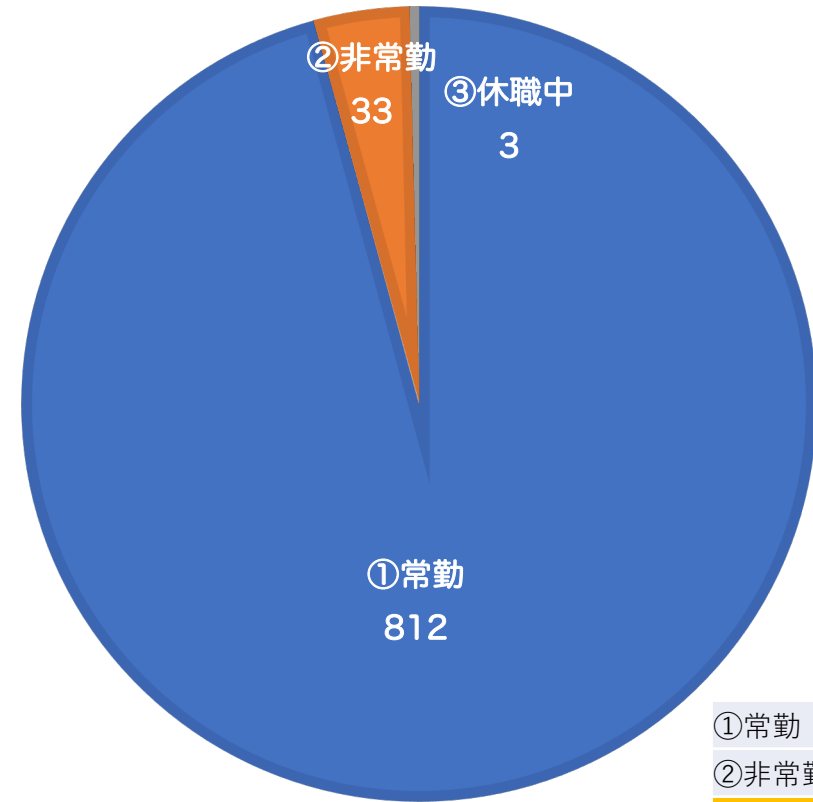


# 属性

Q9. 勤務先



Q10. 勤務形態

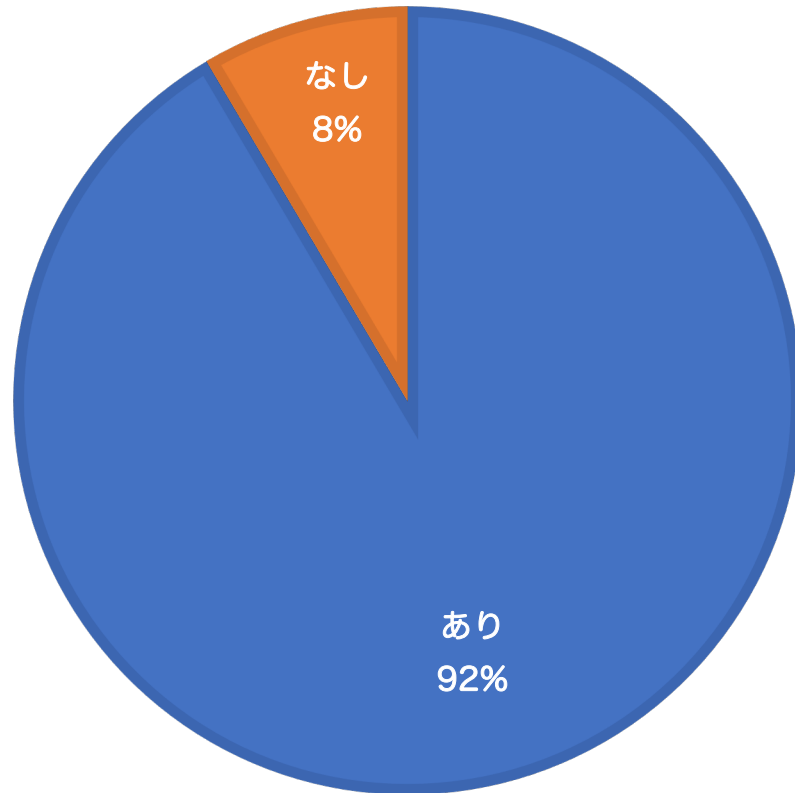


①常勤	812	
②非常勤	33	
③休職中	3	
理由	育児	2
	大学院性	1

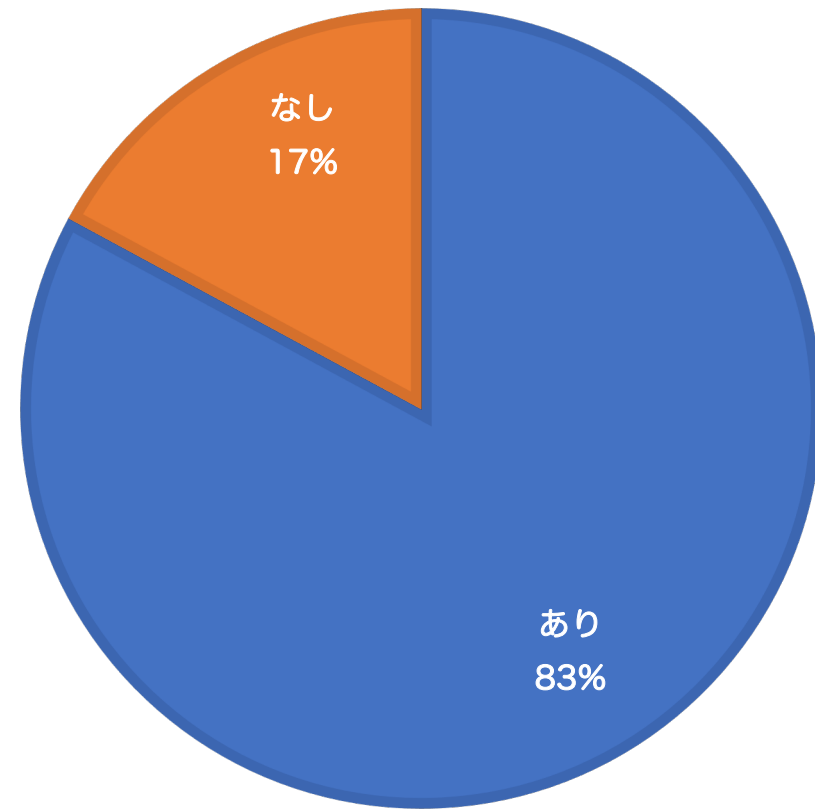


# 属性

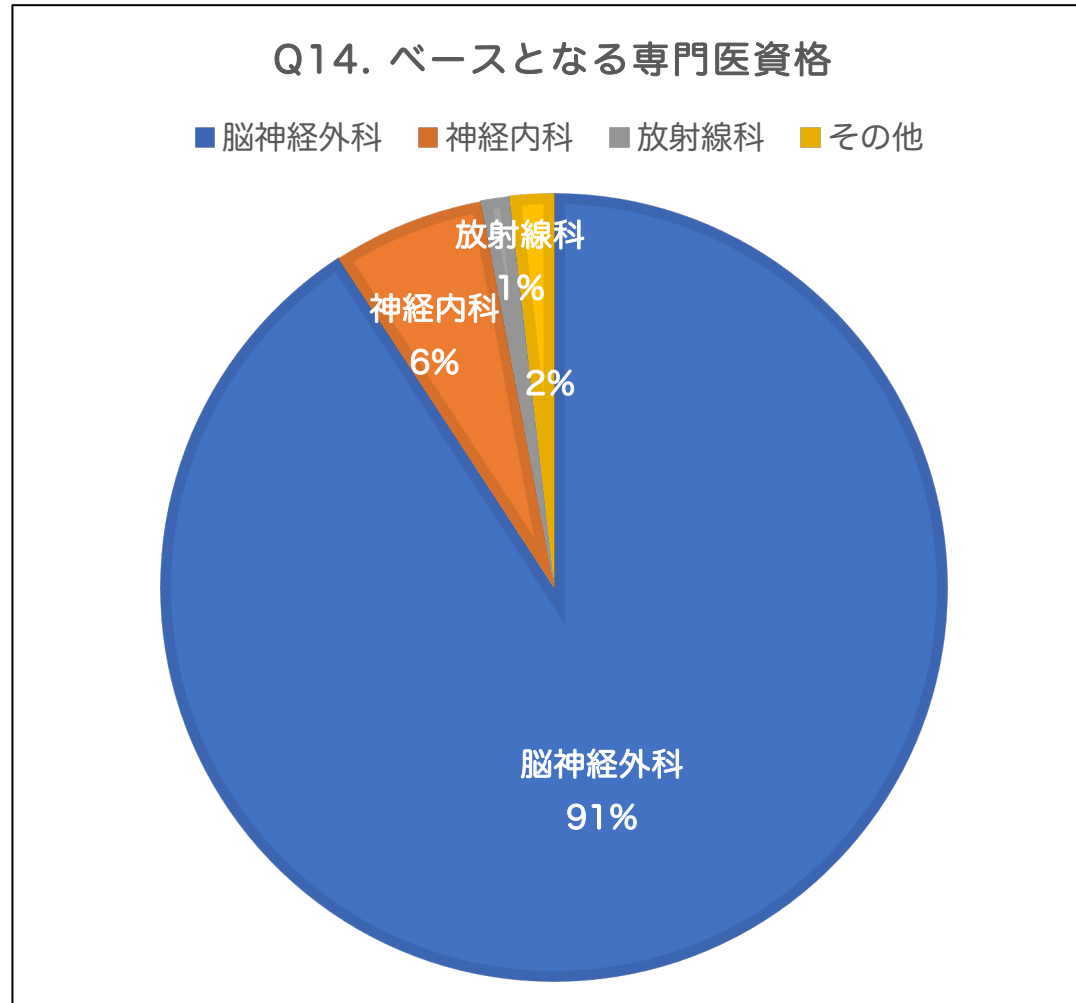
Q12. オンコール



Q13. 当直



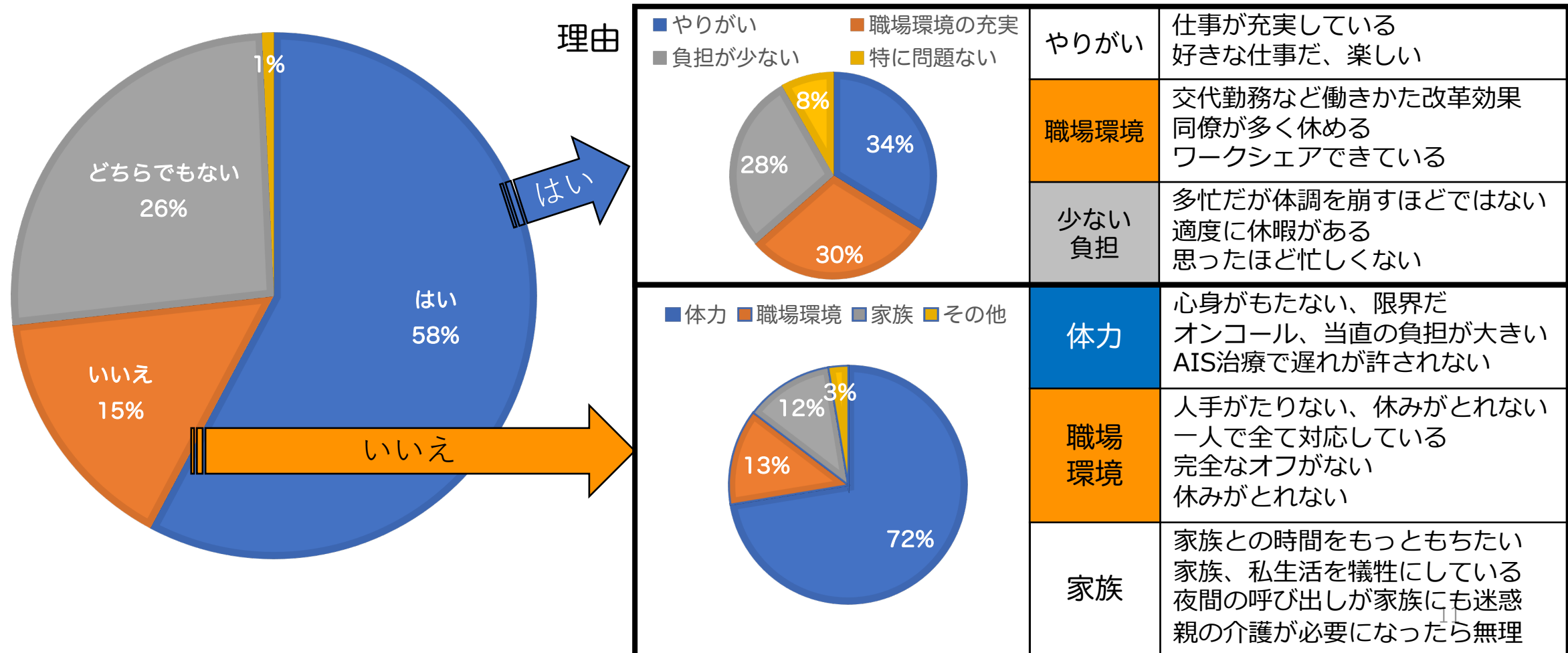
# 属性



脳神経外科	770
神経内科	53
放射線科	10
その他	15
* 内訳	
内科系	6
救急系	4
その他（研修医 など）	4

# 働き方

## ①現在のペースで仕事を続けていく自信があるか？



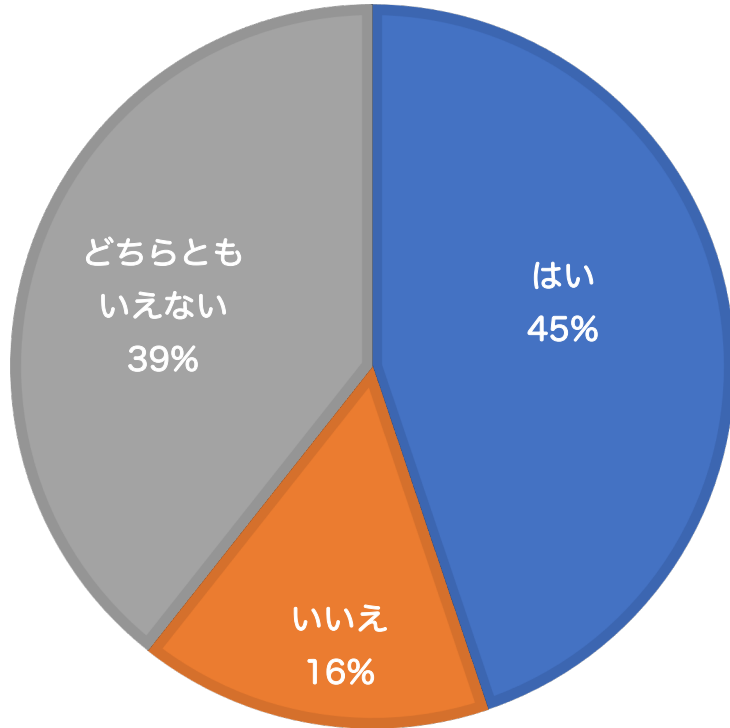
# 働き方

②労働環境改善のために職場で導入されている制度があるか？

呼び出し当番制	462
スマホ・タブレット端末用遠隔画像診断 デバイスの導入	285
当直明け勤務の免除	236
複数主治医制	213
他業種へのタスクシフティング	198
輪番制など他医療機関との連携	100
フレックス制	66
カンファレンスWeb化	65

# 育児・介護

## ③職場は育児・介護に対し理解があるか？



協力的な職場環境 (52%)	休みを取りやすい 早退・休みを容認 産休・育休の取得 男性の育休取得 出産・介護手当の支給
保育所 (17%)	院内保育、病児保育、院内学童
勤務形態の柔軟性 (16%)	リモートワーク フレックス勤務 時間休 当直・オンコール免除 育休中の収入源確保 (バイト斡旋)
その他	オムツ支給、保育料の補助

これらは労働法規で定められている制度

# 育児・介護

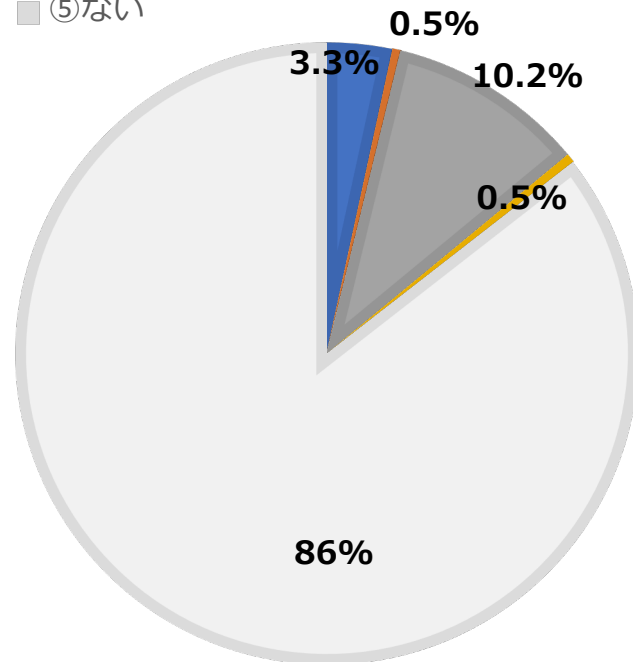
④育児・介護による時短勤務についてどのような問題があるか？

当直やオンコール医の人員不足	593
他のスタッフの負担増加	556
時短勤務医師とのコミュニケーション不足	158
時短勤務医師への教育体制	141

# 育児・介護

## ⑤出産・育児や介護、自身の病気が原因で休職した経験があるか？

- ①ある（育児休業）
- ②ある（介護休業）
- ③ある（病療養）
- ④ある（その他）
- ⑤ない



## 復職で困ったこと

子供の預け先などのマネジメント	8
仕事の感覚・自信の低下	5
体力の低下	5
人間関係の悪化	5
環境変化への対応	3
業務縮小感	3
負い目	2

# 育児・介護

## ⑥脳血管内治療医の休職後の復帰に必要なあるいは役立つシステムは何か？

複数選択

(自由記載)

システム	回答数	環境面	技術面
CEP	575	負担の少ない業務、施設 (アシスタント、時短可能な施設等) 余裕のある人員配置 上司・職場の理解 温かい雰囲気 託児所、病児保育所 資格更新条件の緩和	グループディスカッション オンラインケースカンファレンス 実地訓練 (上級者や指導医とともに) 経験、技量に応じた復職プログラム
デバイストレーニング	560		
ハンズオン	514		
ビデオセミナー	443		
血管モデル	435		
シミュレーター	358		

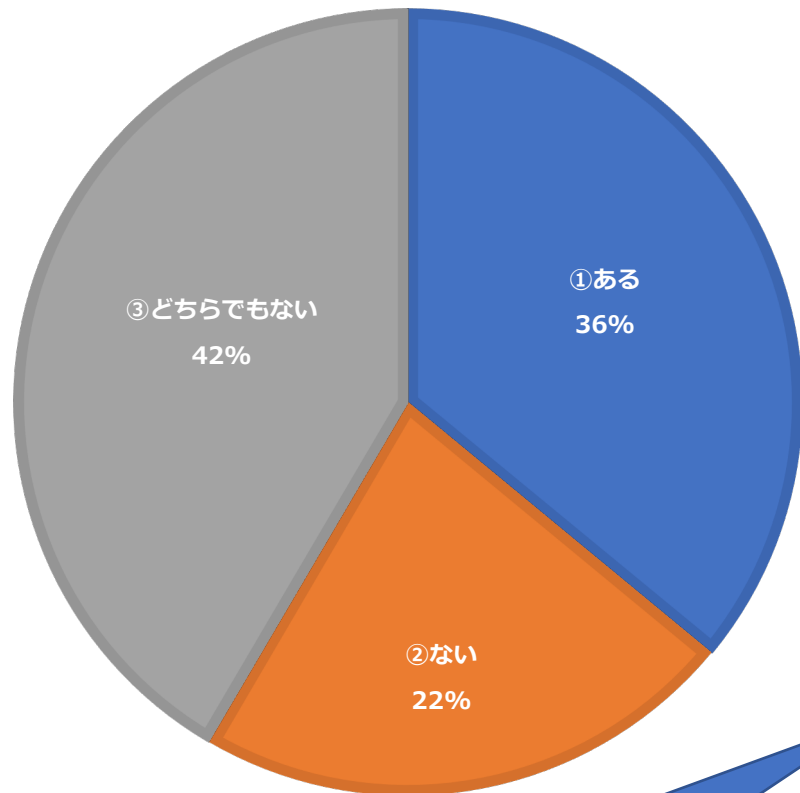
(その他の意見)

一旦身についた技術は、よほど長期間離職しない限り失われないのではないかと。離職中に広まった新規医療機器についてのハンズオン等が有用ではないかと。



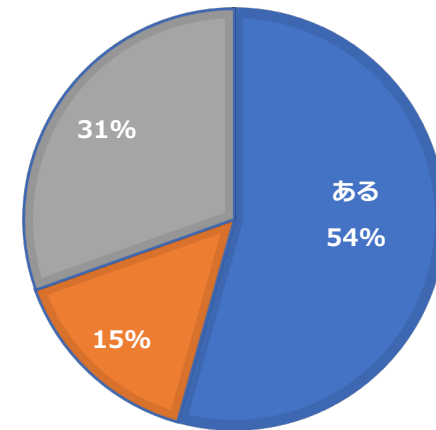
# キャリア

## ⑦脳神経血管内治療医としてのキャリア形成に男女差はあるか？



15/18は男性が回答

女性医師に限ると

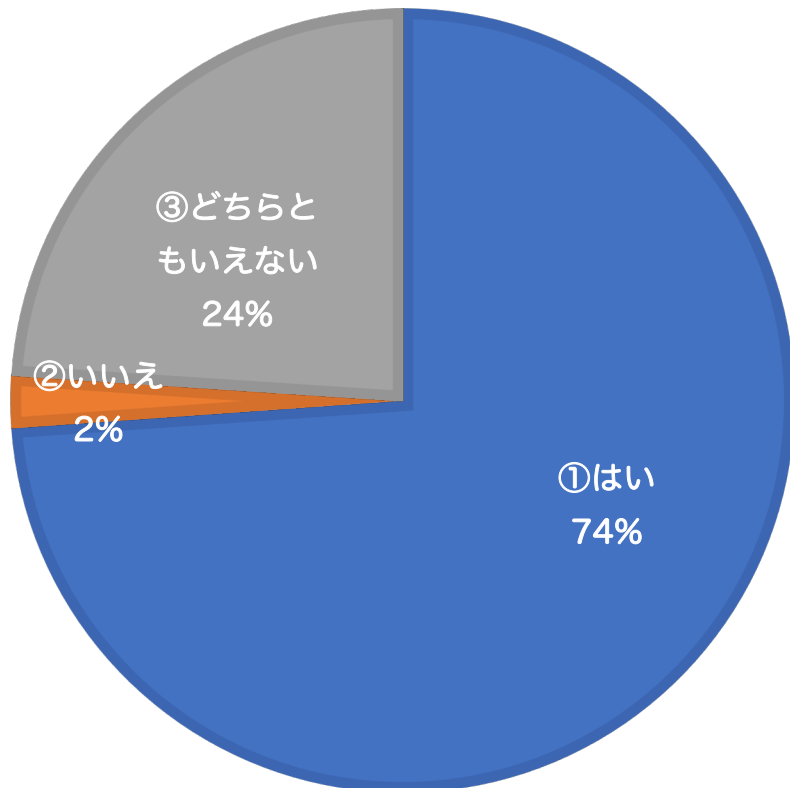


### どのような差か？

女性はライフイベント（家事、育児の分担）が多い	263
女性医師自身キャリアアップに消極的	13
女性医師が優遇されている	3
男性医師が優遇されている	18
（その他）社会通念、育児等でチャンスが掴めないがそれに対する特別な配慮がない、性別による差だけではないのでは？	

# キャリア

⑨男性医師・女性医師のどちらも在籍する職場が望ましいと考えるか？



## 「はい」の理由

女性医師が求められるケースもある  
(患者の半数は女性)

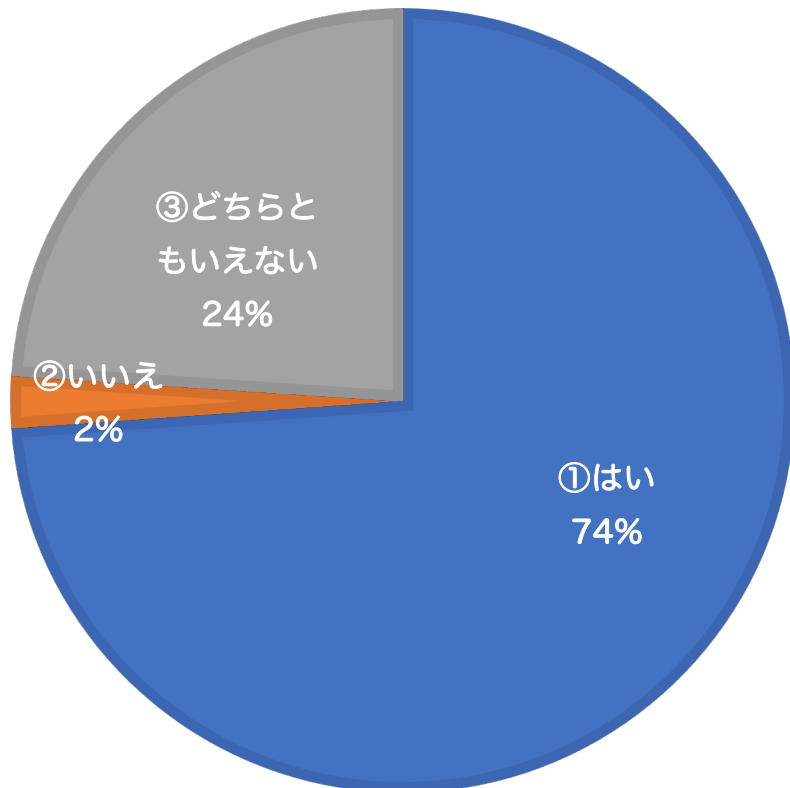
男性を含め職場全体の環境改善に寄与できる  
(相互理解、男性にとっても働きやすい環境になる等)

多様性を持つことが望ましい  
(多角的な視点、能力に性差なし、雰囲気が和らぐ)

人員確保が重要  
(女子学生増加に伴い、男女差がない医局の方が入局を得やすい)

# キャリア

⑨男性医師・女性医師のどちらも在籍する職場が望ましいと考えるか？



## 「いいえ」の理由

男性医師の負担が多くなる（特に脳外科は）

少人数施設では育児休暇や時短には対応困難

## 「どちらともいえない」の理由

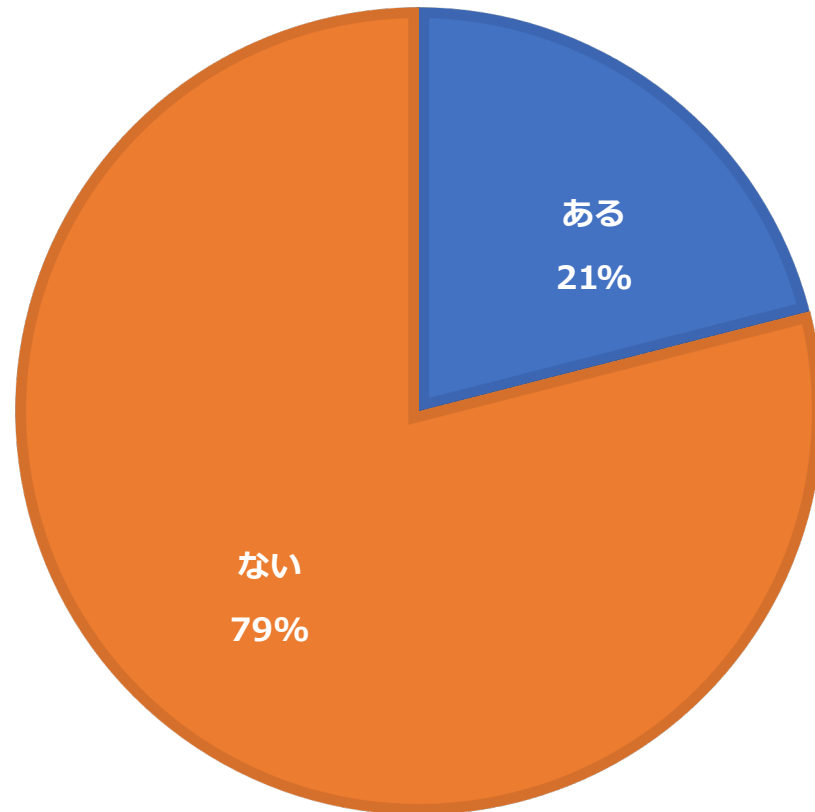
経験がなく不明

性差ではなく個人のキャラクターによる

やりづらい（できれば男性医だけが良い）

# 被ばく

⑩自身もしくは脳血管内治療の同僚スタッフの妊娠に遭遇したことがあるか？



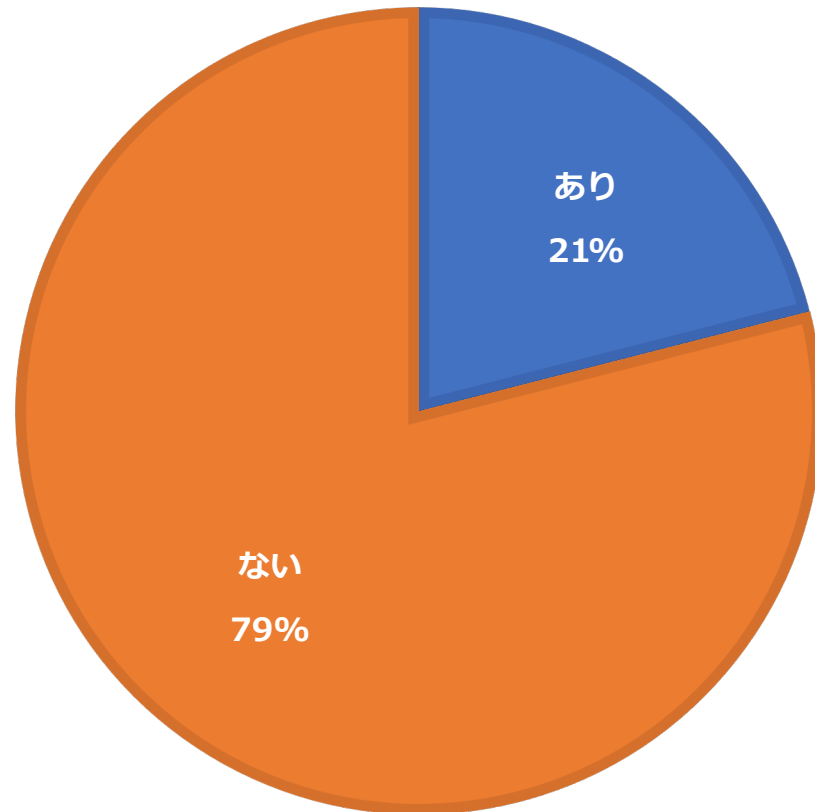
## 困ったこと

マンパワー低下	43
被ばくの問題	37
対応	8
キャリア中断	6
自身の環境悪化	5

血管撮影室に入室できないことによる諸問題  
(治療参加不可、教育不可、受験不可等)  
妊娠初期の被ばく回避が困難

# 被ばく

⑩自身もしくはは脳血管内治療の同僚スタッフの妊娠に遭遇したことがあるか？



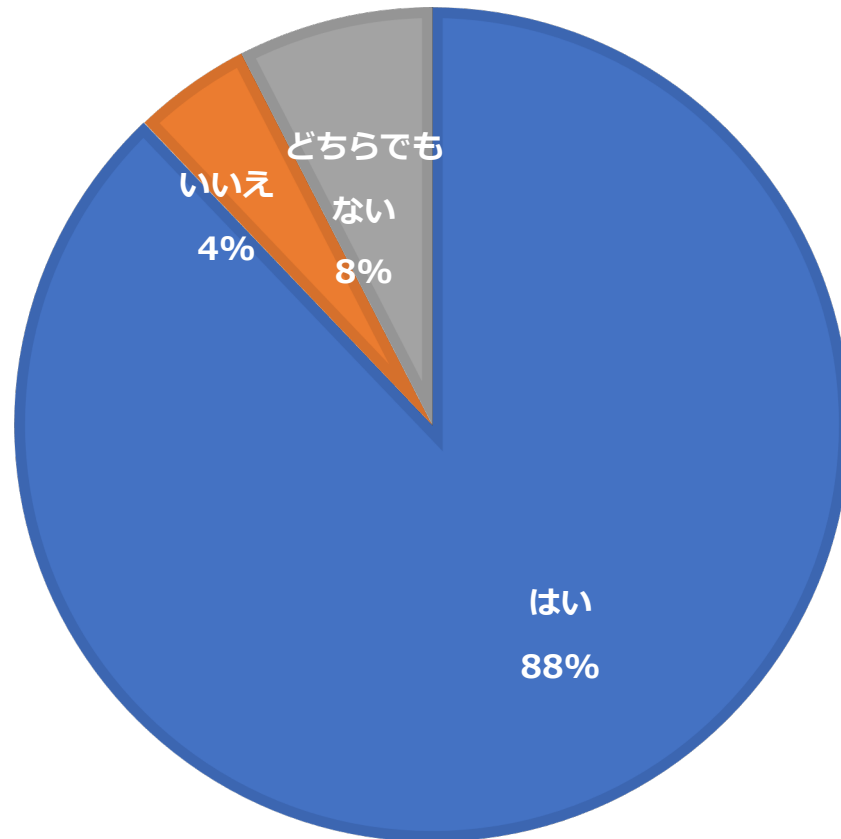
## 困ったこと

マンパワー低下	43
被ばくの問題	37
対応	8
キャリア中断	6
自身の環境悪化	5

消極的になる  
被ばく拒否・早期復帰希望  
不妊治療を含め治療から離れること  
妊娠未確定時の気遣い

# 被ばく

⑪被ばく線量などを規程した妊婦に対する脳血管内治療のガイドラインが必要だと考えるか？



2021年3月27日発行

2019-2020年度活動

**2021年改訂版**  
循環器診療における放射線被ばくに関するガイドライン  
JCS 2021 Guideline on Radiation Safety in Cardiology

合同研究班参加学会

日本循環器学会 日本インターベンショナルラジオロジー学会 日本医学放射線学会  
日本核医学会 日本血管造影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構  
日本不整脈心電学会 日本心血管インターベンション治療学会 日本放射線技術学会

班長

上妻 謙  
帝京大学医学部  
循環器内科

班員

池田 隆徳 東北大学大学院医学研究科 循環器内科学	石綿 清雄 日比谷石綿クリニック	小船井 光太郎 東京ベイ・浦安市川医療センター 循環器内科	加藤 守 秋田県立看護大学 放射線科診療部
近藤 浩史 帝京大学医学部 放射線科学	坂本 肇 順天堂大学保健医療学部 診療放射線科学	鈴木 遊 東京女子医科大学東医療センター 放射線科	副島 京子 吉村大学医学部附属病院 循環器内科
谷澤 貞子 藤田医科大学 循環器内科	近森 大志郎 東京医科大学 循環器内科	橋本 順 東海大学医学部 専門診療学系画像診断学	本江 純子 秀名記念病院 循環器センター
松原 学祐 金沢大学医療保健研究域 保健学系量子医療技術学	松本 一真 兵庫医科大学病院 放射線技術部	松本 直也 日本大学病院 循環器内科	

協力員

阿部 光一郎 東京医科大学 放射線医学	天野 英夫 東京大学大学院医学研究科 循環器内科学	飯森 隆志 千葉大学医学部附属病院 放射線科	上田 明子 吉村大学医学部 不整脈先端治療部
河合 秀樹 藤田医科大学 循環器内科	小菅 寿徳 東京医科大学 循環器内科	鈴木 康之 日本大学病院 循環器科	武田 和也 練馬記念病院 放射線科
仲間 達也 東京ベイ・浦安市川医療センター 循環器内科	日置 敏文 帝京大学医学部附属病院 循環器内科	山下 高史 東海大学医学部附属病院 放射線科	

# 被ばく

## 循環器診療における放射線被ばくに関するガイドライン（2021年改訂）

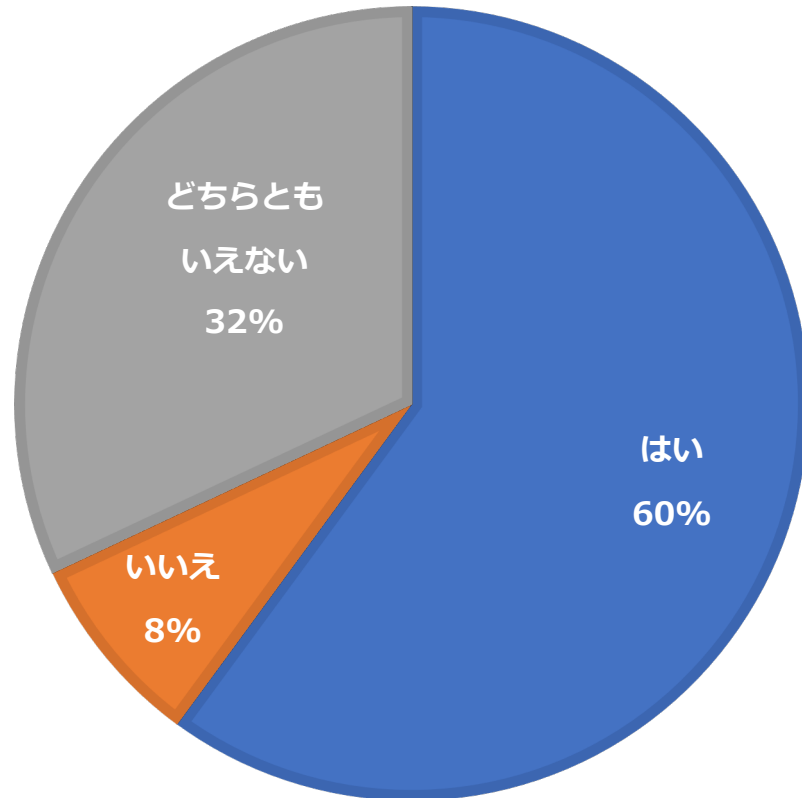
4. 女性医療従事者の胎児の被ばく	28	表 15 妊娠中の女性放射線業務従事者の被ばく管理	28
4.1 胎児被ばくの危険性	28		
4.2 胎児の被ばく線量	29	表 16 英国における通常の診断手法から受ける胎児線量	29
4.3 線量限度としきい線量	29	表 17 胎児被ばくによる主な先天性異常の発生時期	30
		表 18 胎児における放射線の確定的影響のしきい線量	30
4.4 放射線防護	29	図 19 セバレート型放射線防護衣	30
		図 20 巻きスカート型放射線防護衣	30
4.5 放射線安全管理	30		

### 妊婦の職業被ばくの線量限度（電離放射線障害防止規則）

- ✓ 内部被ばくによる実効線量は1mSvを越えないこと
- ✓ 外部被ばくによる腹部表面の等価線量は2mSvを越えないこと
  
- ◆ 腹部表面の等価線量を1か月ごと、全妊娠期間中の合計線量の記録を義務づけ
- ◆ 胎児は、妊娠期間中に受ける吸収線量を1mSv以内とすること

# キャリア

⑫学会で専攻医のキャリア形成をサポートする会があれば良いと思うか？



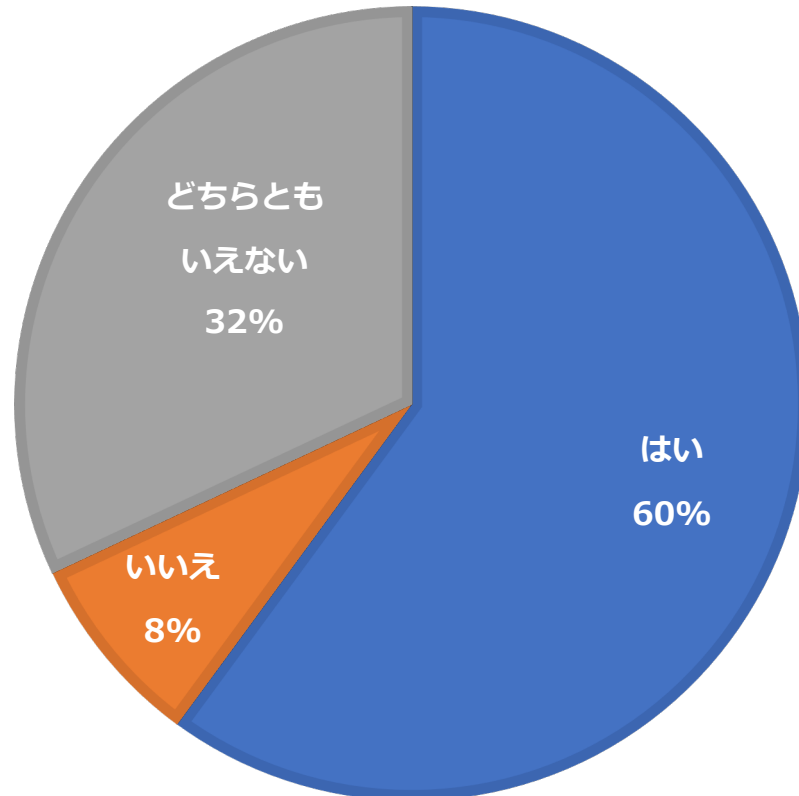
どのようなサポートを望むか？

技術セミナー	41
留学サポート	39
意見交換会	21
平等機会提供	20
教育セミナー、e-learning等	19
就職斡旋	16
施設間交流	15
他、専門医制度見直し、ダイバーシティ強化	



# キャリア

⑫学会で専攻医のキャリア形成をサポートする会があれば良いと思うか？



どのようなサポートを望むか？（その他の意見）

- ・ 所属を越えた情報交換・交流
- ・ 手術見学や助手としての参加がしやすくなるシステム
- ・ 研修先マッチング制度
- ・ 相談窓口
- ・ 被ばくに関する情報提供
- ・ 新規デバイスの普及（研修会など）
- ・ 治療の地域格差解消
- ・ 「人材募集」 各種業務に興味がある人材の募集

# まとめ

- ✓ JSNET医師会員848名（19.4%）から回答を得た（95%男性、91%脳神経外科医）。
- ✓ 職場環境が整っていれば、仕事を続けられるとする医師が多い。
- ✓ 全体の約14%は休職経験がある。
- ✓ 復職時に役立つシステムは、ハンズオンやCEPなどとする回答が多かった。  
また、周辺環境の整備、復職プログラムなどを望む声もあった。
- ✓ 女性医師は家事等の負担がありキャリア形成に差があると感じる医師が多いが、組織的には男女とも在籍することが望ましいという意見が多かった。
- ✓ 被ばくについて、女性医師、所属長ともに問題を感じており、ガイドラインを必要と考えている。
- ✓ 放射線診療における被ばくガイドラインとしては、「循環器診療における放射線被ばくに関するガイドライン」に準拠して実施する。
- ✓ 学会員のキャリア形成に、施設間交流等JSNETにサポートを望む声が多い。<sup>26</sup>